

第 16 回韓国臨床微生物学会参加報告

長崎大学大学院 病態解析・診断学（長崎大学病院検査部）

柳原克紀

平成 25 年 7 月 3 日、4 日に韓国の光州で開催されました第 16 回韓国臨床微生物学会へ参加しました。日本からは戸塚恭一理事長をはじめ、舘田一博理事、長沢光章理事、石井良和先生、第 22 回日本臨床微生物学会の荒川宜親総会長の代理で堀光広副会長が出席しました。日本から光州への直行便はありませんので、金浦空港で国内便に乗継ぎになりました。学会前夜には、日韓交流会を開催していただきました。日本からの 6 名と韓国から理事長をはじめ、理事等が出席され、楽しい時間を過ごしました。（写真 1）

交流会では、出席者の自己紹介が終わった後で、平成 26 年 1 月に日本で開催する第 25 回日本臨床微生物学会への参加の依頼状を堀光広副会長が代読し、お手紙をお渡ししました。翌日は、Kimdaejung Convention Center において学会が開催されました。口頭発表が一つの会場で、ポスター発表が別会場となっていました。口頭発表会場の入りロビーでは展示が行われていました。ご高名な Patrick Murray 先生が「The beginning and current status of human microbiome project in USA」と題して、大変示唆に富む基調講演をされました。ピッツバーグ大学でご活躍中の土井洋平先生の特別講演「Antimicrobial resistant mechanisms of multidrug-resistant *Acinetobacter baumannii* and *Pseudomonas aeruginosa*」も素晴らしい内容でした。日韓ジョイントシンポジウムも企画されており、韓国からは Ulsan University の Mina Kim 先生と Yonsei University の Seok Hun Jeong, 先生が韓国における腸内細菌科細菌と緑膿菌の耐性状況についてご発表されました。日本からは、石井先生が「Nationwide surveillance of carbapenem resistant Gram-negative organisms in Japan」、私が「Molecular techniques for rapid detection and control of nosocomial infections caused by *Pseudomonas aeruginosa*」と題して講演しました。両国の薬剤耐性菌について討論することができ、大変有意義なシンポジウムになりました。韓国臨床微生物学会より、感謝の盾をいただきました。（写真 2）。学会の合間には、光州事件の記念碑や博物館で、韓国の歴史に触れることができました。私は今回初めて参加しましたが、隣国である韓国とはこれからも、学术交流を通じて、良好な連携をとっていききたいと強く思いました。